

宮城県美田園高等学校
令和7年度 第1回学校評議員会 記録抜粋

1 日時

令和7年6月29日（日）午後1時45分～午後3時

2 会場

宮城県美田園高等学校 会議室

3 情報交換

- (1) 令和7年度重点目標についての質疑
- (2) 令和7年度前期教育活動についての質疑
- (3) 令和7年度学校運営改善の取組についての質疑

4 各評議員からの助言等

【A評議員】

- 在籍生徒数の多さには驚きを感じる。不登校生や全日制高校からの編入生が多いという全国的な傾向が背景にあると考えられる。
- 経済的な事情も含め、美田園高校の学習スタイルが保護者に認識されつつあると判断している。
- 現代社会の厳しさの中で、生徒が精神的な不安や外部環境への不安を抱える傾向が強まっており、教員による指導の難しさが増していると感じる。
- 教員が生徒の良い点を見出し、それを伸ばしながら寄り添う姿勢を持つことで、生徒が「この高校でよかった」と感じるができると思う。教員の努力に大いに期待したい。

【B評議員】

- 地域スクーリングの継続に感謝するものである。現在の実施場所については、生徒の通いやすさを考慮し、再検討を望む。
- 就職活動において、面接そのものが高いハードルとなっている生徒が存在する。学校として、アルバイト先の斡旋や、美田園高校の生徒を受け入れてくれる就職先の情報提供を進路指導の一環として検討してはどうか。
- 関係機関が県南部に集中している現状に対し、県北など遠方から通う生徒や、保護者が学校に来ることが難しい生徒が、関係機関とつながる機会を失うことを懸念している。
- 生徒数が増加している現状に鑑み、他校の事例を参考にしながら、学校のキャパシティや教員配置に関する課題を明確にすべきである。学びが身につかない生徒が増えることを危惧している。
- 他校の優れた事例があれば積極的に取り入れ、県教育委員会にも柔軟な対応を求めたい。必要があれば、自ら交渉に出向く用意がある。
- 美田園高校の存在によって、生徒たちが社会とつながり、自信を持つ機会を得ている点を高く評価する。評議員としても、子どもたちを支える意識を持ち、主体的に関わっていきたい

と考えている。

【C評議員】

- 在籍生徒数の多さには驚きを感じる。学校のキャパシティ不足について懸念している。
- 地域スクーリングの場所選定に関しては、生徒の通いやすさを重視し、再検討の必要性を感じている。
- 地域スクーリングの存在意義や、県教育委員会が検討している「サテライト校」などの将来構想については、見直しを提案するものである。
- 本校一校で現在の生徒数に対応することには限界があると感じており、県北部など潜在的ニーズが存在する地域に対して、他県の事例を参考にサテライト校の設置を検討すべきである。
- 生徒のアルバイト支援については、外部機関との連携など、「スモールステップ」での支援が重要であると考える。
- 関係機関が県南部に集中している現状に対し、県内全域での支援体制の改善が必要である。
- 美田園高校は、学習に対する姿勢が重要であり、諦めずに前に進む力や素直さが育まれる場であるという認識が広まることを期待している。